

## 滞在報告

分子環境解析化学研究領域 塩谷暢貴

令和6年度若手研究者国際短期派遣事業の支援を受け、約2ヶ月間、オーストリア・グラーツ工科大学のRoland Resel教授のもとで研究滞在をしました。グラーツはシュタイアーマルク州の州都で、ウィーンに次ぐオーストリア第2の都市になります。街の中心部にはシュロスベルクと呼ばれる丘に時計塔がそびえ立ち、街のシンボルとなっています。また、ヨーロッパ有数の大学都市としても知られており、私が滞在したグラーツ工科大学以外にも多くの大学があり、街は活気に満ちています。

Resel研究室が属するInstitute of Solid State Physicsは8つの研究グループから構成されており、学生数は研究所全体で30人程度と、京都大学化学研究所と比べると小規模ではありましたが、その分研究グループ同士の結びつきは強く感じました。本研究所の建物の中には、共用のカフェスペースが1箇所しかなくともあっても、そこに人が集まる傾向にあり、結果としてそれが人と人のつながりを強めているように見受けられました。また、スタッフ・学生問わず、ほとんどの居室の扉は常に開かれており、研究所としての風通しの良さを感じました。Resel研究室に限って言えば、毎週木曜日のランチに日本食レストラン（正確には中国人経営の日本食”風”レストラン）に行くのが恒例となっており、研究室でのコミュニケーションを円滑にする一助になっていたように思います。

このような雰囲気の中で、研究所内の多くの人々が私の研究滞在を温かく受け入れてくれたことは、今でも強く心に残っています。特にResel先生には、私の研究に対して別の研究グループの協力も仰いでいただくなど、研究面で多くのサポートをしていただきました。その結果、当初の目的以上の研究成果を得ることができました。また、週末には、教授夫妻の案内で地元民しか集わないようなローカルなスポットを巡ったり、研究室メンバと泊りがけのハイキングに出かけたりと、非常に刺激的な日々を過ごすことができました。

最後に、このような貴重な機会を頂いた、京都大学化学研究所およびグラーツ工科大学関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



↑ 研究室構成員の顔写真.



↑ 山小屋前での集合写真.